

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果  
概要と指導の改善策



平成28年9月30日  
旭川市立中央中学校

## ○ 調査結果の分析に当たって

本年4月19日に実施しました「平成28年度全国学力・学習状況調査」について、この度、本校の結果の概要と改善策をまとめました。

結果の分析に当たっては、国立教育政策研究所が作成した解説資料等を参考にしながら、旭川市教育委員会の本調査結果の公表についての考え方を踏まえ、次のとおりといたしました。

### ■教科に関する調査の結果分析

- 学校としての平均正答率が80%以上のものを「成果」、  
    // //           60%以上80%未満のものを「おおむね達成」、  
    // //           60%未満のものを「課題」                   として整理。
- 課題の中から特に平均正答率が低く指導の改善が必要であるものを抽出し、その出題の趣旨から生徒に身に付けさせなければならない力を分析。
- 具体的な授業場面における改善方策を明示。

### ■生徒質問紙調査の結果分析

- 質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした生徒の割合が80%以上のものを「肯定的な回答が高い割合を示した質問項目」、
- 質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした生徒の割合が60%未満のものを「肯定的な回答が低い割合を示した質問項目」                   として整理。

### ■教科に関する調査結果と生徒質問紙調査の結果との相関関係の分析

- 教科に関する調査（国語A・B、数学A・B）の回答数（満点＝93）の上位25%の集団とそれ以外の集団との2集団間における生徒質問紙調査の結果から、回答状況に一定の差が認められる質問項目を「学力に好影響（悪影響）を及ぼす可能性のあるもの」                   として整理。

#### 【本報告書作成に当たって参考とした資料一覧】

- 「平成28年度全国学力・学習状況調査」の調査問題、正答例、解説資料（国立教育政策研究所）  
<<http://www.nier.go.jp/16chousa/16kaisetu.htm>>
- 平成27年度全国学力・学習状況調査結果 概要と指導の改善策（旭川市教育委員会）  
<<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/kyoikuseisaku>>

## ■教科に関する調査の結果分析

## 国語A

(実生活に不可欠であり学習を進める上での基礎・基本となる知識・技能を観点とした問題)

### <国語A 出題の趣旨及び成果と課題>

#### 【成果が見られた設問】

- 3二 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する
- 5一 相手や場に合った言葉遣いなどに気を付けて話す
- 5二 全体と部分との関係に注意して話を構成する
- 9二 文脈に即して漢字を正しく読む
- 9七2 歌に表れた作者の思いを想像する

#### 【おおむね達成していた設問】

- 1一 聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話す
- 1二 目的に応じて資料を効果的に活用して話す
- 2一 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く
- 2二 集めた材料を整理して文章を構成する
- 3一 文脈の中における語句の意味を理解する
- 4一 文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く
- 4二 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く
- 6一 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える
- 6二 文章の構成や展開について自分の考えをもつ
- 7一 話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する
- 8一 奥付の特徴や役割を理解する
- 8二 奥付を使って本についての情報を得る
- 9一 漢字を書く
- 9三 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
- 9七1 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む

#### 【課題が見られた設問】

- 7二 互いの発言を検討して自分の考えを広げる
- 9四 辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える
- 9五 文の成分の照応について理解する
- 9六 文字の形や大きさ、配列に注意して書く



#### 【指導の改善に向けて】

《文の成分の照応についての理解を深めるために》

- 一つの文節が一つの文の成分になっていることを理解し、文節に分けることから始めることを徹底させる。
- その文節の行き先（かかり-うけ）を判断し、文節同士の関係がどんな関係になっているかを理解する学習を1年時だけでなく、機会ある毎に取り組む。
- 文の成分の用語や関係の意味を理解する学習を一層充実させる。

《文字の形や大きさ、配列に注意して書く力を育成するために》

- 文字の形や大きさに注意するために、正しい筆順で書くことや特に平仮名の筆遣いや筆脈を理解して書く学習を一層充実させる。
- 漢字は大きめに、平仮名は小さめに書くことによって、漢字と仮名の調和が図られることを理解する学習を一層充実させる。
- 用紙の形や大きさに合わせて、文字の大小や字間、文字の配置、余白の取り方、行の中心に書く学習を一層充実させる。

国語B  
(知識・技能を実生活の中で活用する能力を観点とした問題)

<国語B 出題の趣旨及び成果と課題>

【成果が見られた設問】

- 1一 文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える

【おおむね達成していた設問】

- 1二 目的に応じて必要な情報を読み取る  
1三 文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く  
3一 文章の展開に即して内容を理解する

【課題が見られた設問】

- 2一 文章の構成を捉える  
2二 目的に応じて文章を要約する  
2三 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える  
3二 目的に応じて必要な情報を読み取る  
3三 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く



【指導の改善に向けて】

《課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える力を育成するために》

- 文章を読んで、さらに知りたいことや疑問に思うことを出させる学習を一層充実させる。その際、観点として「なぜ」「どんなふうに」「どのくらい」「どうやって」を示して考えさせる。
- 実際に図書館を利用して調べる学習を通して、本の探し方を学ぶ学習を一層充実させる。
- 図書や新聞、インターネットを活用して調べた結果をレポート等にまとめる学習活動を一層充実させる。

《本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く力を育成するために》

- 問題の意図（何を書けばいいか）を理解させる学習を一層充実させる。
- 日常的に自分の考えや感想等を書く学習に取り組み、その際に必ず理由や根拠を添えて書くように指導する。
- 文章と資料を照らし合わせて読む学習を通して、資料の中でどの部分が情報として補われていたり、わかりやすくなっていたりするのかを読み取る学習を一層充実させる。

## 数学A

(実生活に不可欠であり学習を進める上での基礎・基本となる知識・技能を観点とした問題)

### <数学A 出題の趣旨及び成果と課題>

#### 【成果が見られた設問】

- 1 (3) 正の数と負の数の加法の計算ができる
- 2 (2) 整数の加法と減法の計算ができる
- 3 (4) 2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができる
- 5 (1) 空間における直線と直線との位置関係(辺と辺とがねじれの位置にあること)を理解している

#### 【おおむね達成していた設問】

- 1 (1) 分数と小数の乗法の計算ができる
- 1 (4) ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している
- 2 (3) 不等式の意味を読み取ることができる
- 2 (4) 具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる
- 3 (1) 簡単な一元一次方程式を解くことができる
- 4 (2) 対称移動した図形をかくことができる
- 5 (2) 四角形をその面と垂直な方向に平行に動かすと、四角柱が構成されることを理解している
- 5 (3) 見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることができる
- 6 (1) 平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求めることができる
- 6 (2) 多角形の外角の和の性質を理解している
- 6 (3) 三角形の合同条件を理解している
- 7 (2) ひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表すことができる
- 7 (3) 命題の逆を理解している
- 9 (1) 比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、 $x$  の値に対応する  $y$  の値を求めることができる
- 10 (1) 一次関数のグラフの特徴について、表と関連付けて理解している
- 13 (1) 「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解している
- 13 (2) 簡単な場合について、確率を求めることができる

#### 【課題が見られた設問】

- 1 (2) 自然数の意味を理解している
- 2 (1) 数量の関係を文字式に表すことができる

- 3 (2) 一元一次方程式の解の意味を理解している
- 3 (3) 具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる
- 4 (1) 垂線の作図の方法について理解している
- 5 (4) 円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の  $1/3$  であることを理解している
- 8 証明の必要性と意味を理解している
- 9 (2) 比例の式について、 $x$  の値の増加に伴う  $y$  の増加量を求めることができる
- 9 (3) 具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している
- 9 (4) 反比例のグラフ上の点の座標から、 $x$  と  $y$  の関係を式で表すことができる
- 10 (2) 一次関数  $y=ax+b$  について、変化の割合が一定で  $a$  の値に等しいことを理解している
- 10 (3) 一次関数のグラフから、 $x$  の変域に対応する  $y$  の変域を求めることができる
- 11 具体的な事象における一次関数の関係を式に表すことができる
- 12 (1) 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる
- 12 (2) 測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解している



【指導の改善に向けて】

《反比例のグラフを見て、 $x$  と  $y$  の関係を式で表す力を育成するために》

- グラフから式や座標を求める問題を意図的に授業で取り上げ、「表・式・グラフ」を互いに関連付けた学習活動を一層充実させる。
- 関数（比例，反比例，1次関数，2次関数）の指導の際には、整数値以外の座標を考え、多くの座標をとっていったときにどのようなグラフになるのかを、生徒が実感をもって理解できる学習活動を展開する。
- 1次関数の学習の後に、これまで学習した関数（比例，反比例，1次関数）の値の変化の特徴や、グラフの形について振り返るなどの学習時間を設定する。

《資料を整理した表から必要な値を読み取る力を育成するために》

- 「最頻値」「中央値」が代表値としてふさわしい資料（例えば、スポーツメーカーがテニスシューズを製造するとき、どのサイズを1番多く製造するのか など）を取り上げ、「平均値」が代表値としてふさわしくないことがあることを印象深く理解させ、「最頻値」「中央値」を代表値として資料を読み取る活動を充実させる。

## 数学B

(知識・技能を実生活の中で活用する能力を観点とした問題)

<数学B 出題の趣旨及び成果と課題>

【成果が見られた設問】

※平均正答率が80%以上であり、学校として成果と認められる設問はありませんでした。

【おおむね達成していた設問】

- 1 (1) 与えられた情報から必要な情報を選択し、処理することができる
- 3 (1) 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる
- 6 (1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる

【課題が見られた設問】

- 1 (2) 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができる
- 1 (3) 適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる
- 2 (1) 条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 $x$  の値に対応する  $y$  の値を求めることができる
- 2 (2) 加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる
- 3 (2) グラフの傾きを事象に即して解釈することができる
- 3 (3) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる
- 4 (1) 筋道を立てて考え、証明することができる
- 4 (2) 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる
- 5 (1) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
- 5 (2) 与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる
- 6 (2) 与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる
- 6 (3) 計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成することができる



【指導の改善に向けて】

《筋道を立てて考え、証明する力を育成するために》

- ・証明の指導の際には、問題文中から証明に必要な情報を読み取り、何が仮定で何が結論なのかを明確にしてから証明することを丁寧に指導していく。
- ・結論を導き出すために、何を示せばよいのかなど、証明の流れの見通しを持たせる指導の工夫を行いながら授業展開する。
- ・証明以外の単元でも、生徒が自ら考え、その考えたことを生徒同士で説明し合う活動をより一層充実させる。

《与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を説明する力を育成するために》

- ・文字を使って数量を表すこと(1年:文字と式 2年:式の計算 3年:式の計算)と、1つの文字について解くこと(2年:式の計算)の共通点や相違点を明確にししながら、3学年を通して文字を使うことのよさを実感できる授業づくりを進める。

## ■生徒質問紙調査の結果分析

【肯定的な回答が高い割合を示した質問項目（先頭は質問項目の番号を示す）】

- 1 朝食を毎日食べていますか。
- 3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。
- 4 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。
- 8 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。
- 19 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。
- 22 家で、学校の宿題をしていますか。
- 27 学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか。
- 28 学校で、好きな授業がありますか。
- 31 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。
- 32 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- 38 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）。
- 39 学校の規則を守っていますか。
- 40 友達との約束を守っていますか。
- 41 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- 42 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 43 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- 53 1, 2年生のときに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。
- 62 国語の勉強は大切だと思いますか。
- 65 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- 74 数学ができるようになりたいと思いますか。

【肯定的な回答が低い割合を示した質問項目】

- 7 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。
- 21 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
- 23 家で、学校の授業の予習をしていますか。
- 24 家で、学校の授業の復習をしていますか。
- 30 学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。
- 34 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- 37 新聞を読んでいますか。
- 52 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。
- 54 1, 2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよくやっていたと思いますか。
- 57 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。
- 58 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。
- 66 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。
- 67 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。
- 76 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。
- 79 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか。

【その他】

- ・11 平日に1日当たり2時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする（テレビゲームを除く）生徒 52.2%（全国平均は48.7%）
- ・12 平日に1日当たり2時間以上テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする生徒 46.9%（全国平均は34.9%）
- ・13 平日に1日当たり2時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする生徒（携帯電話などでゲームをする時間は除く） 46.1%（全国平均は30.1%）
- ・14 平日に1日当たり1時間以上勉強をする（学習塾や家庭教師を含む）生徒 53.1%（全国平均は67.8%）

※北海道教育委員会が目安として示している平日の家庭学習時間は中学校3年生で100分以上、平日にメディアに触れる時間は1日2時間以内としている。

■生徒質問紙調査の結果から

生徒質問紙調査の結果から、朝食を毎日食べたり、毎日同じくらいの時刻に起きたりするなどの習慣は身に付いており、家で学校の宿題にも取り組んでいる様子が見えます。また、学校で、友達に会うのを楽しみ先生から自分のよいところを認められていると感じるとともに、学校の規則や友達との約束を守り、さらには、いじめはどんな理由があってもいけないと思うなど、自己肯定感をもち規範意識や人を思いやる心が育っている様子が見えます。

一方、家庭で学校の宿題を行うけれども、自ら計画を立てて勉強したり、授業の予習・復習を行ったりするなどの主体的な家庭学習の習慣が身に付いていないといった、本校の生徒の状況も浮き彫りになっています。

## ■ 教科に関する調査結果と生徒質問紙調査の結果との相関関係の分析

本校生徒の学力と学習状況、生活習慣について、より詳細に分析し、今後の学力向上策の作成に生かすため、教科に関する調査の結果と生徒質問紙調査の結果との相関関係の分析を試みました。

相関関係の分析に当たって、教科に関する調査を受検した生徒113人について、正答数の多い順から上位25%の生徒の集団とそれ以外の生徒の2つの集団に分けました。その後、集団ごとの生徒質問紙調査の回答状況をデータ集積し、比較検討を行いました。

その結果、多くの質問項目において、上位25%の生徒の集団が、それ以外の生徒の集団と比べて、肯定的な回答をする割合が高い傾向が見られました。

さらに、詳細に分析するため、質問紙調査の質問項目の分類を行うとともに、上記2つの集団における回答状況の差が大きい質問項目（本校では、肯定的な回答の割合の差が15%以上のものなどと定義しました）を明らかにしました。差が大きい項目ほど、学力に好影響（悪影響）を及ぼす可能性があると考えたからです。

分類は、旭川市教育委員会が推進する学力向上策を踏まえ、「授業改善」、「落ち着いた学習環境づくり」、「望ましい習慣づくり」の3つのカテゴリーをもとに行いました。

また、国立教育政策研究所の報告書では、質問項目を11に分類しており、この分類方法と前述の3つのカテゴリーとの関連付けを図り、下の表のように整理しました。

カテゴリー	国立教育政策研究所の分類	質問番号
授業改善	A：＜学習に対する関心・意欲・態度＞	(28)(44)(45)(46)(61)(62)(63)(65)(66)(67)(68)(69)(70)(71)(72)(73)(74)(75)(76)(77)(78)(79)(80)(81)(82)(83)(84)(85)
	B：＜学習状況＞	(7)(8)(33)(47)(48)(49)(50)(51)(52)(53)(54)(55)(56)(57)(58)(59)(60)
	C：＜社会に対する興味・関心＞	(35)(36)(37)(38)
落ち着いた学習環境づくり	D：＜学校生活等＞	(26)(27)(29)(30)(31)
	E：＜規範意識＞	(39)(40)(41)(42)(43)
望ましい習慣づくり	F：＜学習時間等＞	(14)(15)(16)(17)(18)(21)(22)(23)(24)(25)(64)
	G：＜基本的な生活習慣＞	(1)(2)(3)(10)(11)(12)(13)
	H：＜将来に関する意識＞	(9)
	I：＜自尊意識＞	(4)(5)(6)(32)

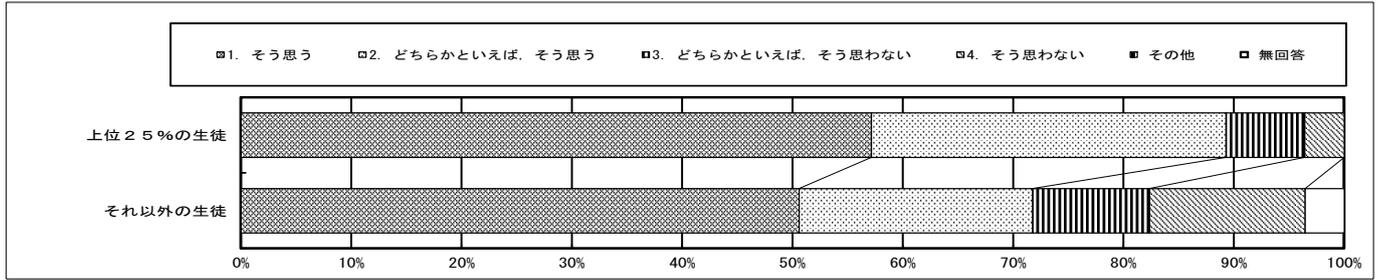
※3つのカテゴリーに当てはまらない項目

その他	J：＜家庭でのコミュニケーション等＞	(19)(20)
	K：＜地域との関わり＞	(34)

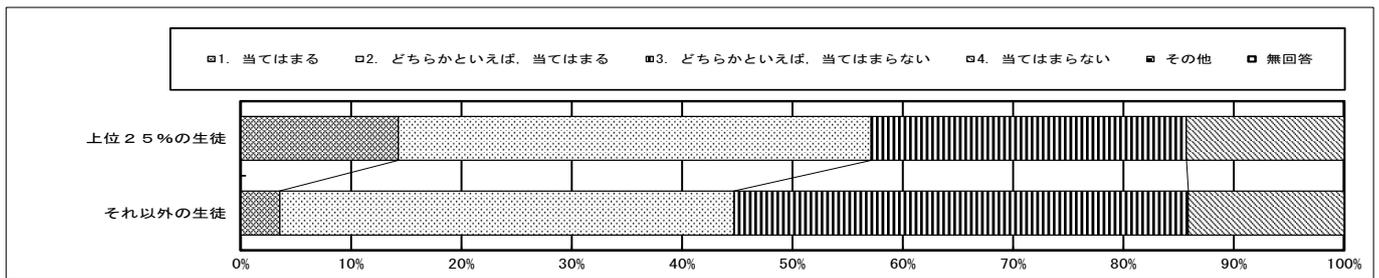
以下、上記の分類に沿って、集団間の差が大きい質問項目の回答状況を示します。

# ◇授業改善＜学習に対する関心・意欲・態度＞

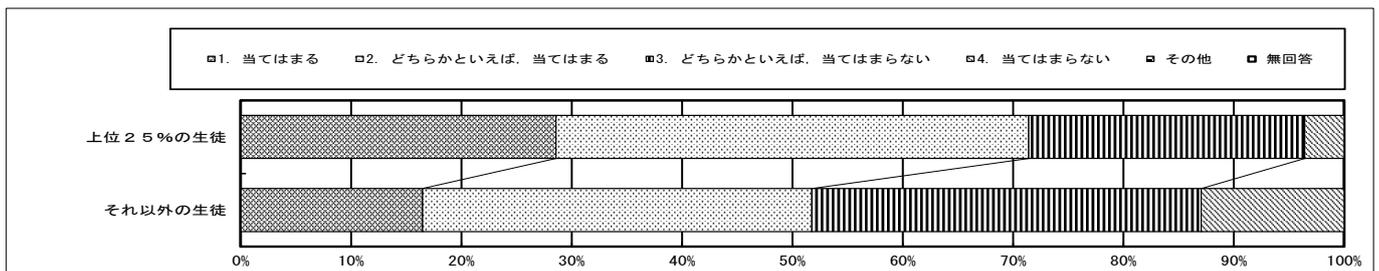
28 学校で、好きな授業がありますか



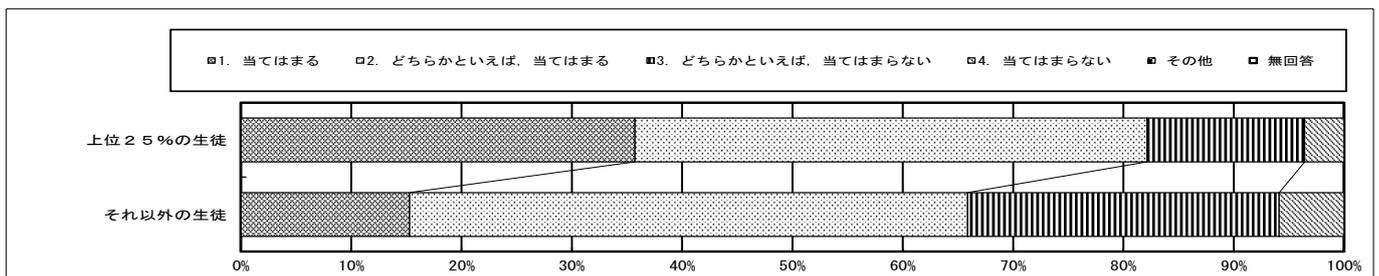
67 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか



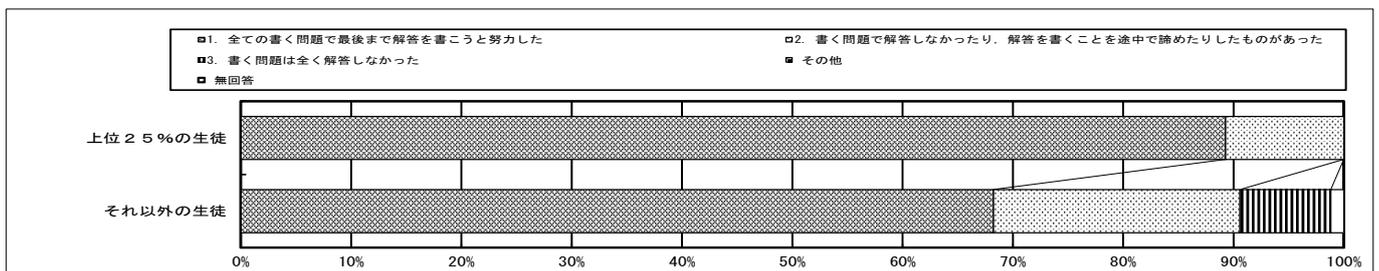
68 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



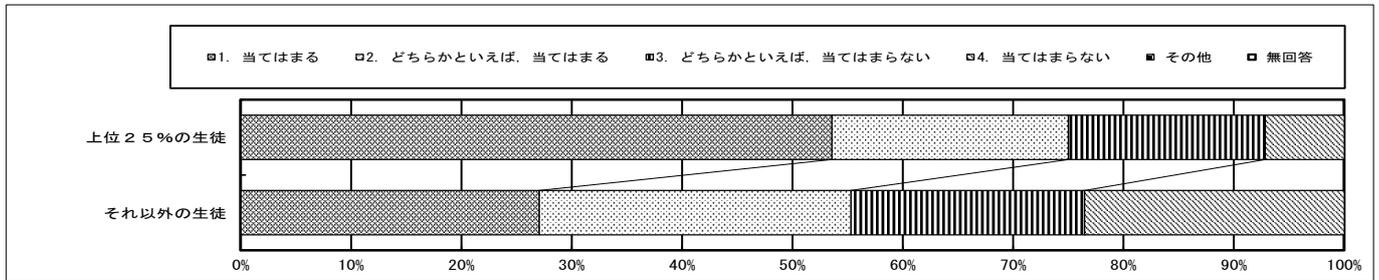
69 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか



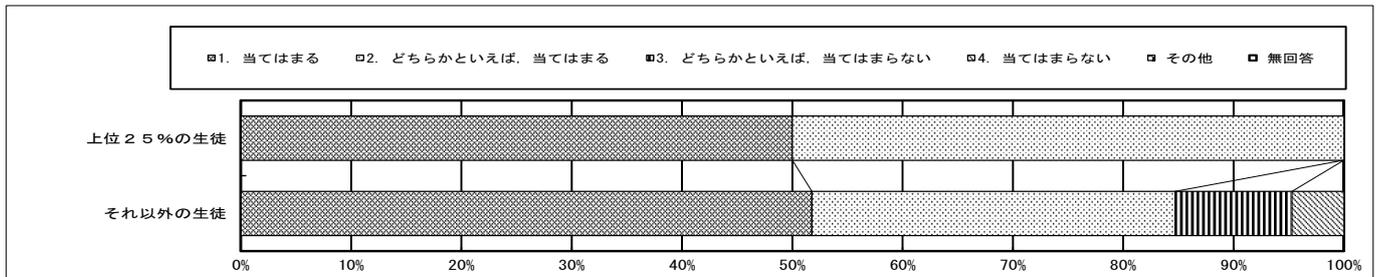
70 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか



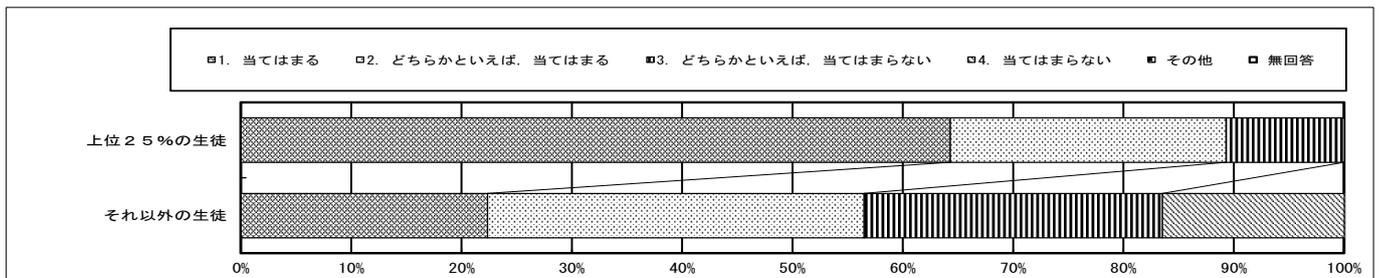
## 71 数学の勉強は好きですか



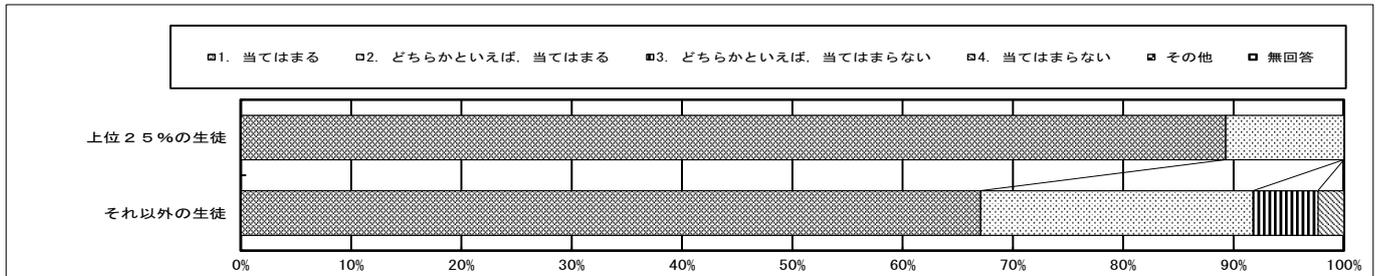
## 72 数学の勉強は大切だと思いますか



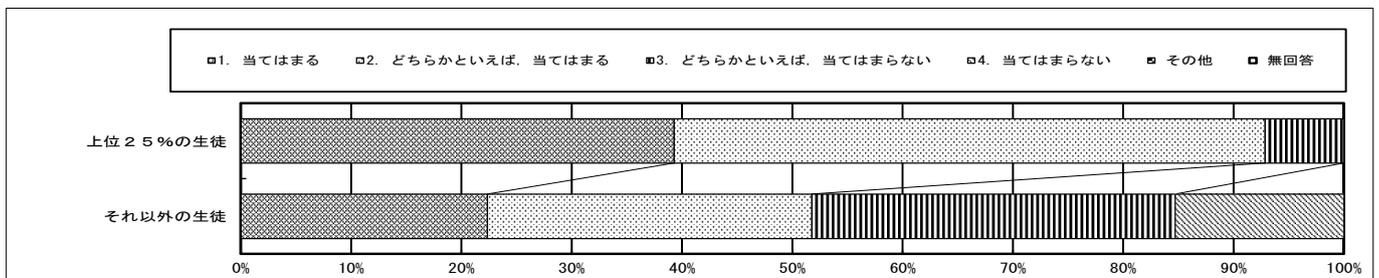
## 73 数学の授業の内容はよく分かりますか



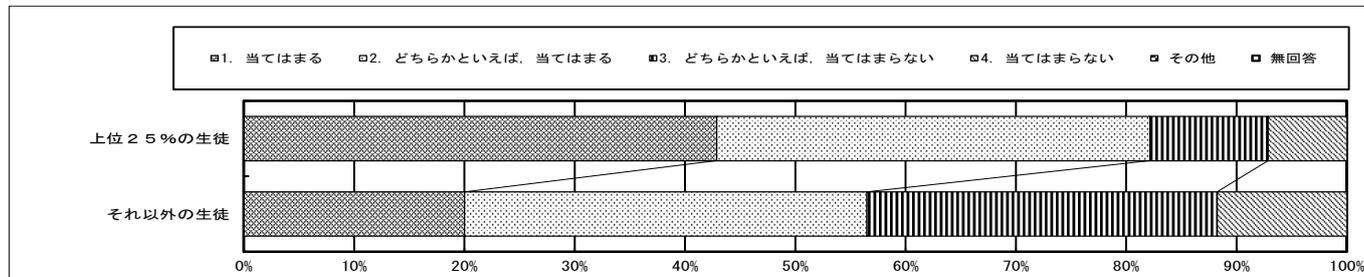
## 74 数学ができるようになりたいと思いますか



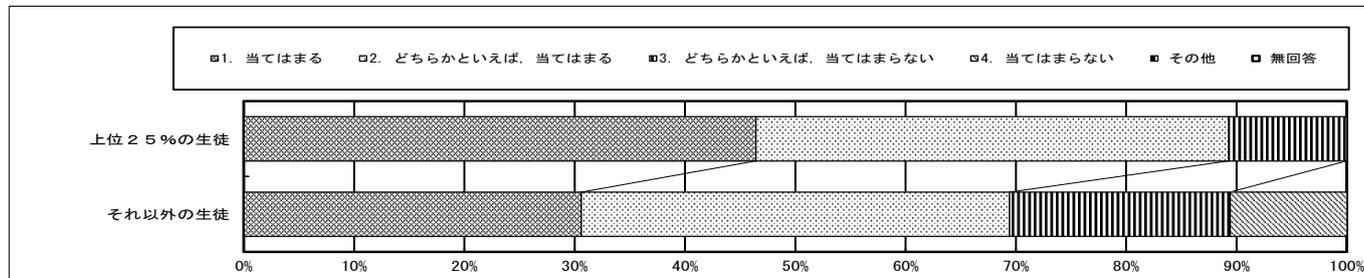
## 75 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



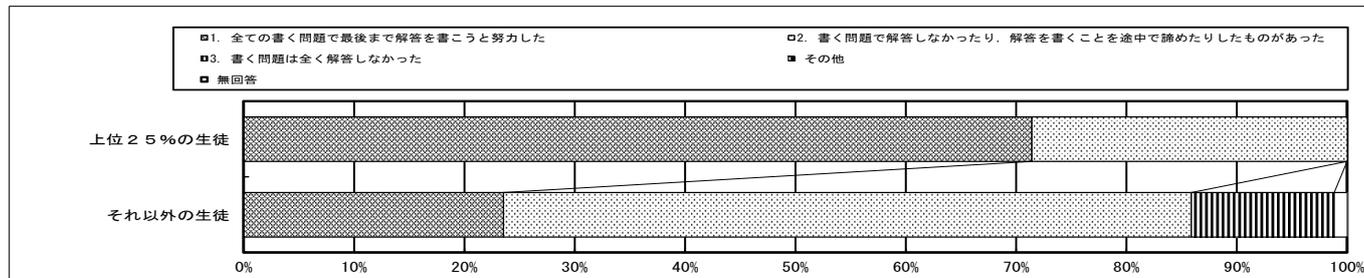
79 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



80 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

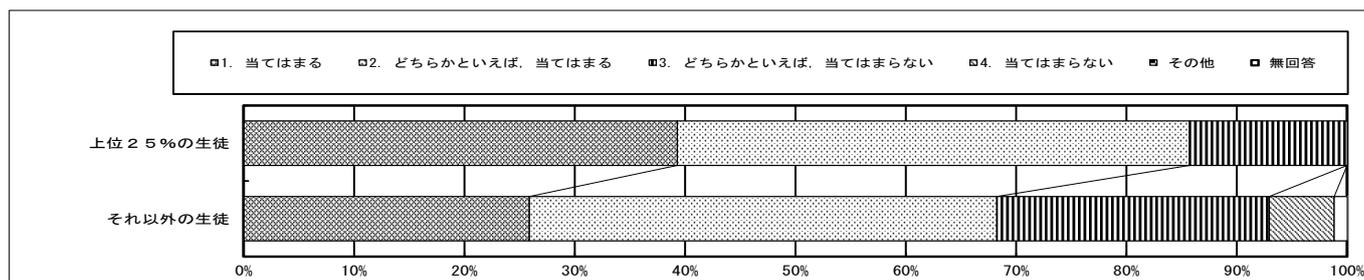


81 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか

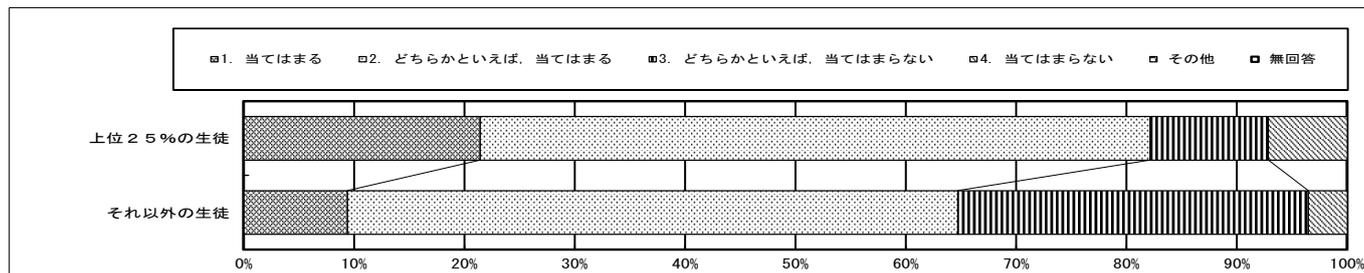


◇授業改善＜学習状況＞

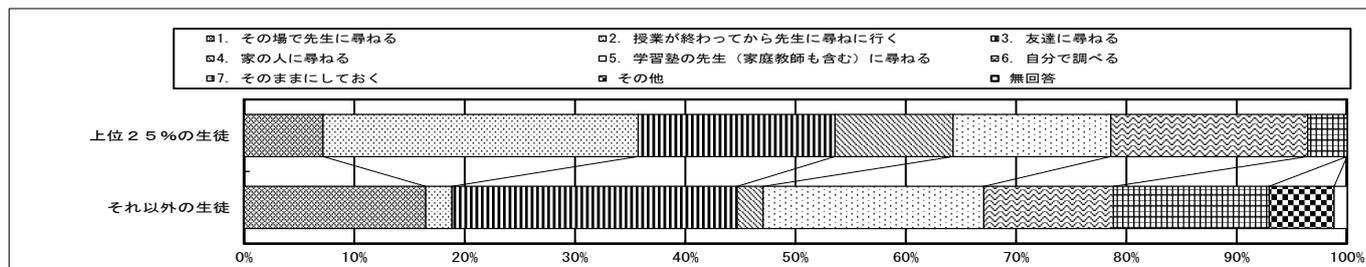
33 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいませんか



47 1, 2年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか

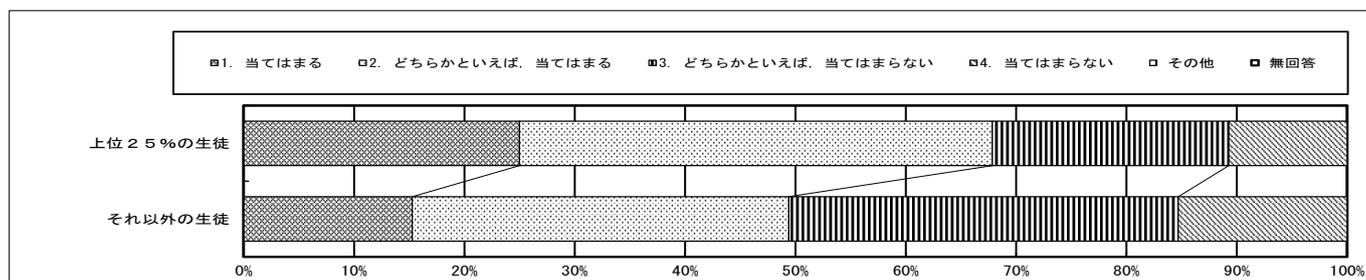


## 60 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか

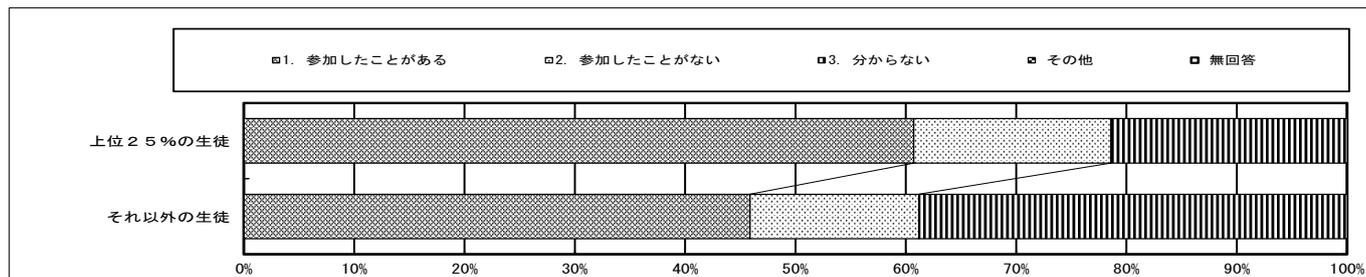


## ◇授業改善＜社会に対する興味・関心＞

### 35 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



### 36 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



### 【考察】

カテゴリー「授業改善」については、分類A＜学習に対する関心・意欲・態度＞の28質問項目中、13項目において集団間の差が大きいと整理しました。分類B＜学習状況＞及び分類C＜社会に対する興味・関心＞において集団間の差が大きい質問項目は、それぞれ3項目と2項目にとどまり、「学習に対する関心・意欲・態度」が生徒の学力に好影響（悪影響）を与える要素であることが改めて確認できました。

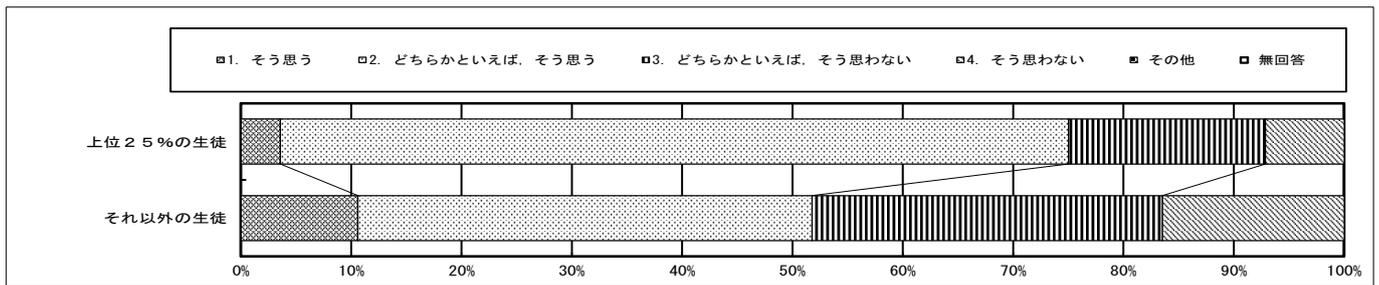
このことから、今後も、今回の調査の対象教科であった国語や数学はもとより、どの教科においても、私たち教職員は生徒の関心・意欲を高める指導方法の工夫に努める必要があると考えます。

また、「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」との質問項目において、「そのままにしておく」と回答した生徒の割合が、上位25%の生徒については3.6%しかいなかったのに対し、それ以外の生徒については14.3%にのぼりました。

このことから、授業中の疑問点等について生徒が教師に伝えたり、生徒同士が互いに学び合いながら疑問点を解消したりするなどの時間の確保や指導方法の工夫が、今後の本校の課題であると考えます。

## ◇落ち着いた学習環境づくり<学校生活等>

30 学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。



### 【考察】

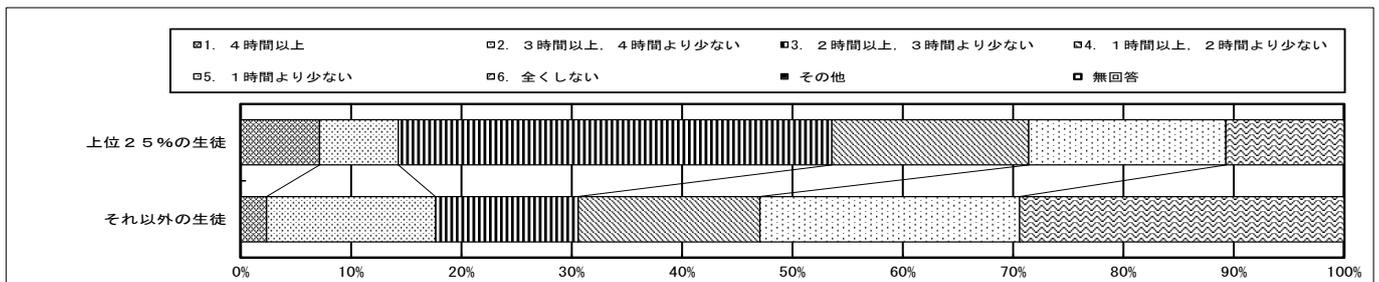
カテゴリー「落ち着いた学習環境づくり」については、分類D<学校生活等>の5質問項目中、1項目において集団間の差が大きいと整理しました。分類E<規範意識>については、集団間の差が大きい質問項目はなく、学力との明確な相関関係は、本校においては、今回認められませんでした。

質問項目30の回答状況から、今後は、国語科の指導事項「話し合うこと」を踏まえ、国語科の指導との関連を図りながら、学級会等における話し合い活動を充実させていくことが重要であると考えます。

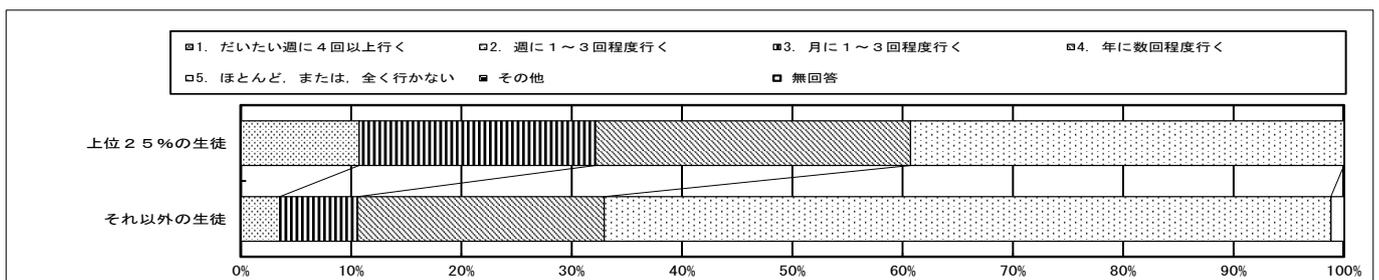
また、質問項目30は、「コミュニケーション能力」とも捉えることができます。質問項目67「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」（9ページ参照）も同様に「コミュニケーション能力」と捉えることができ、このことから、今後、コミュニケーション能力が学力に及ぼす影響についても検証する必要があります。

## ◇望ましい習慣づくり<学習時間等>

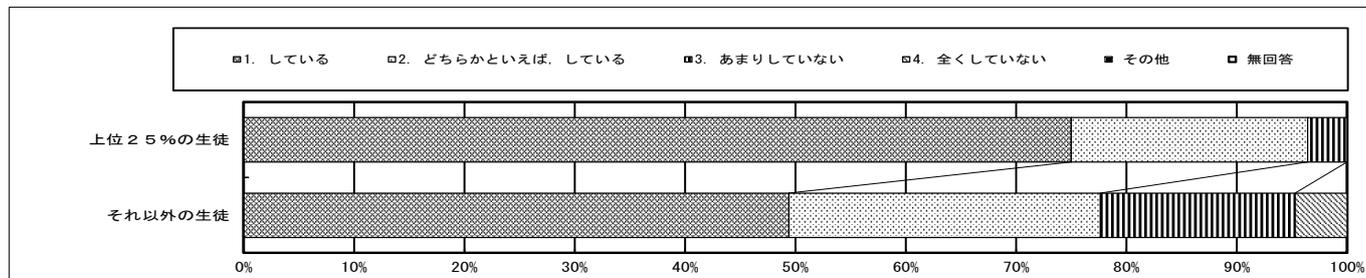
15 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



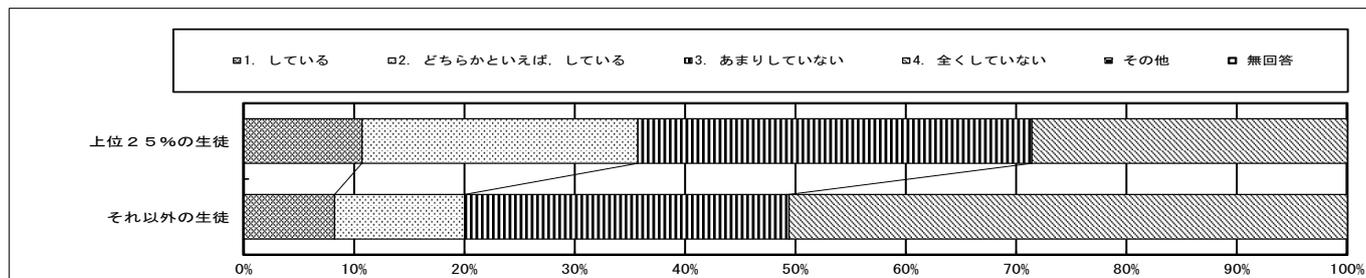
18 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか



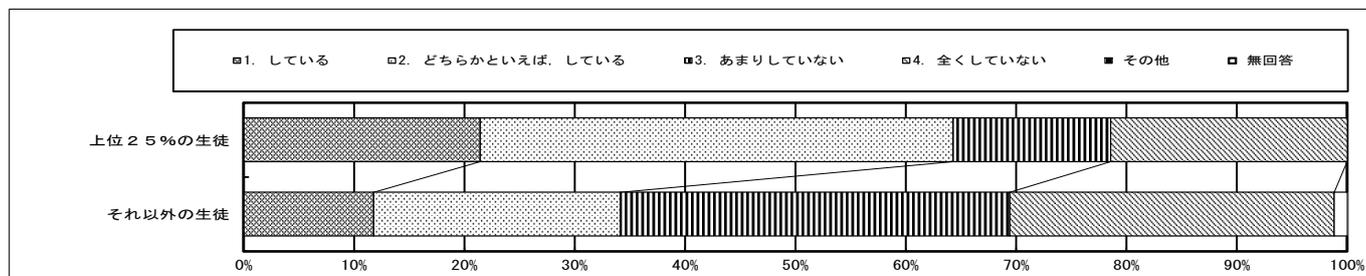
## 22 家で、学校の宿題をしていますか



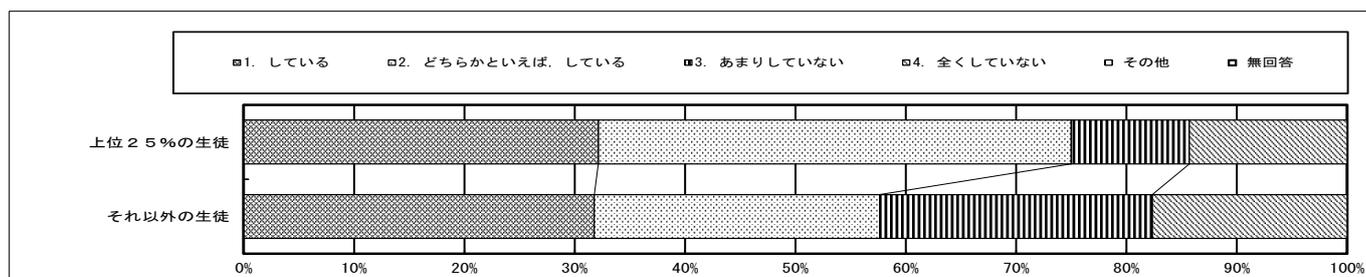
## 23 家で、学校の授業の予習をしていますか



## 24 家で、学校の授業の復習をしていますか

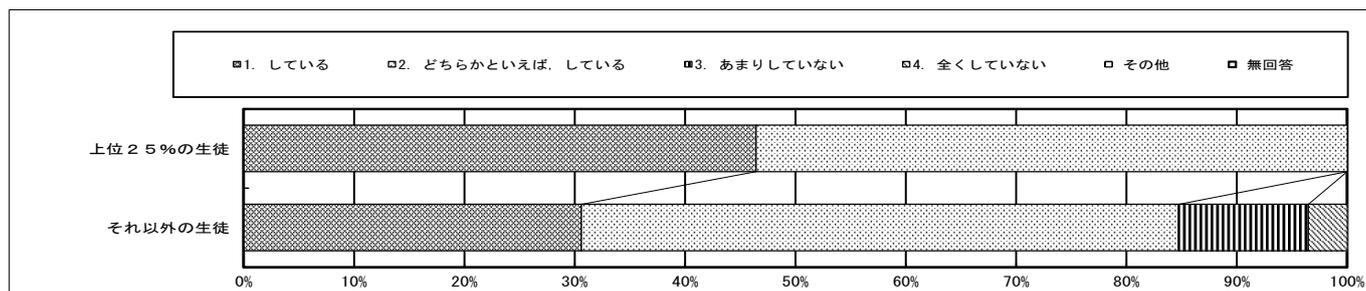


## 25 家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか

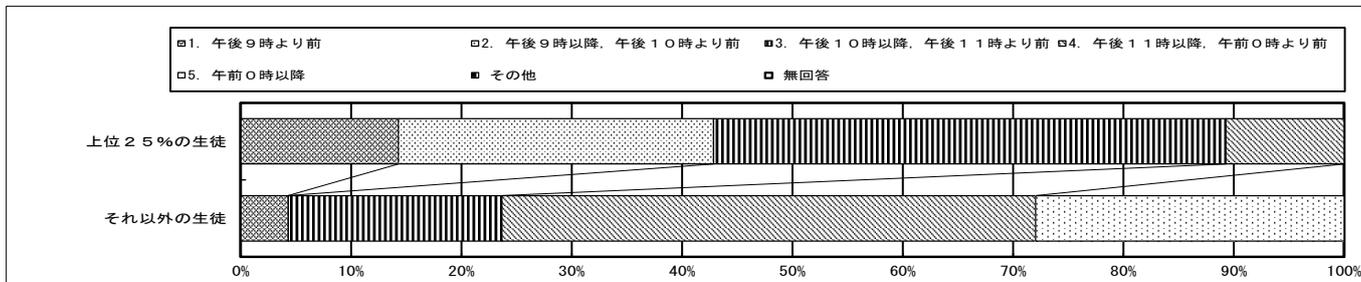


## ◇望ましい習慣づくり<基本的な生活習慣>

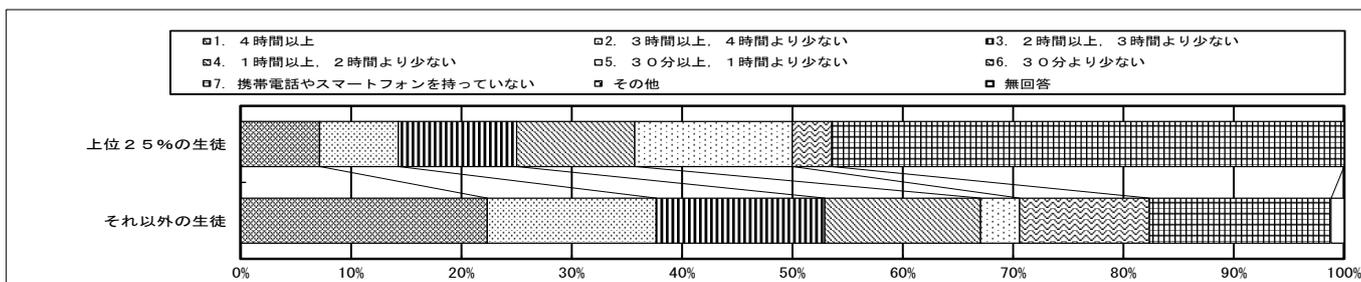
### 3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



## 10 普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか



## 13 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



### 【考察】

カテゴリー「望ましい習慣づくり」については、分類F〈学習時間等〉の11質問項目中6項目、分類G〈基本的な生活習慣〉の7質問項目中3項目において、集団間の差が大きいものと整理しました。分類H〈将来に関する意識〉及び分類I〈自尊感情〉については集団間の差が大きい質問項目はなく、生徒の学力との明確な相関関係は、本校においては、今回認められませんでした。

〈学習時間等〉と〈基本的な生活習慣〉として分類された18質問項目のうち、半数の9項目において集団間の差が大きいと整理しました。

このことから、「学習時間等」と「基本的な生活習慣」については、特に、生徒の学力に好影響（悪影響）を及ぼす可能性のあるものとして捉え、その改善に向け、今後、学校としての具体的な取組を検討していく必要があります。中でも、質問項目13において、平日に2時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする生徒の割合を比較したところ、上位25%の生徒については25.0%であったのに対し、それ以外の生徒については52.9%と2倍以上に上り、歴然とした差が見られました。また、質問項目10において、午後11時以降に就寝する生徒の割合を比較したところ、上位25%の生徒については12.0%であったのに対し、それ以外の生徒については76.3%にも上りました。午前0時以降に就寝する生徒の割合も、上位25%の生徒は0%であったのに対し、それ以外の生徒は28.0%という結果になりました。

携帯電話やスマートフォンを利用するための時間が睡眠時間や学習時間を削り、生徒の学力に悪影響を及ぼしているばかりか、生徒の心身の健康にも何らかの望ましくない影響を及ぼしている可能性があります。睡眠中に成長ホルモンが活発に分泌されることもあり、成長期に必要な睡眠をとることは大切とされており、道教育委員で、すえおかこどもクリニック（札幌市清田区）の末岡裕文理事長（小児科医）によると、中・高校生は8～9時間が必要としています（北海道新聞 平成28年4月17日朝刊記事より）。

本質問紙調査の結果によると、全国的に80%以上の中学校3年生が携帯電話やスマートフォンを持っているという現状を考えると（本校3年生の所持率は76.1%）、それらの利用時間をいかにコントロールしていくかということが、学力向上と心身の健康の保持増進等に向けて、学校・家庭が連携して取り組む喫緊の課題であると考えます。

## ■学力向上に向けた今後の取組

## ■学力向上に向けた今後の取組

これらの調査結果に基づき、国語科、数学科においては、学力調査を受けた第3学年の生徒に対し、十分に身に付いていないと思われる学習内容について、日常の授業はもとより夏季休業中のサマースクールや放課後学習等を通じて、再度指導を行ってきました。

また、今年度の生徒質問紙調査の結果から見られた課題は、昨年度の調査結果の課題とほぼ共通していることから、第3学年生徒だけではなく本校の生徒全体の課題として捉え、その改善に向けて全校的に取り組む必要があると考えています。

こうしたことから、本校では、学力向上に向け、次の取組を行ってまいります。

### 1 「楽しい」「分かる、できる」を実感させる授業づくり

本校では、昨年度より、研究主題「生徒指導の機能を生かした指導の充実 ～共感的な『学び合い』の構築を目指して～」の下、教師と生徒、生徒同士の共感的理解に基づく人間関係を重視しながら、自己存在感を高め、自己決定の場面を指導過程に効果的に位置付けるなどの指導方法の改善・工夫に努めてきました。生徒同士の「学び合い」が、生徒の教科学習に対する知的好奇心を刺激し、「楽しい」「分かる、できる」を生徒に実感させる授業を実現するとともに、今後求められる指導方法「アクティブ・ラーニング」への私たちの学びにつながるものと考えます。今後、これまでの研究の成果や課題を検証しつつ、日々の授業の一層の改善・充実に努めてまいります。

### 2 落ち着いた学習環境づくり

学校において、生徒が安心して授業に臨み学習内容を確実に身につけることができるようにするためには、規律を定着させ落ち着いた雰囲気の中で学ぶことができる環境を整えることが大切です。そのために、本校では、教職員間で学習のきまりについて共通理解を図るとともに、年度当初から生徒への指導を継続してまいりました。

今後も、学習規律の一層の確立に努めるとともに、学級経営を重視し、学級活動や学校行事等の特別活動を通じて、互いのよさや違いを認め合う望ましい集団づくりを重視してまいります。

### 3 基本的な生活習慣（学習習慣を含む）の確立

学力の向上はもとより、生徒が夢や目標を見つけ、その実現に向けて努力する態度を培うためには、規則正しい生活習慣や学習習慣を身に付けることが大切です。しかしながら、本校生徒については、これまでに述べてきたように、テレビやテレビゲーム、携帯電話・スマートフォンなどのメディアの管理や主体的な家庭学習習慣において課題が見られることから、その改善が急務となっています。生活習慣や学習習慣は、一定の時間をかけて形成されていくことや、一度習慣化されたことを変えることは容易ではないことから、その改善のためには、家庭との緊密な連携とともに、校区小学校との共通理解に基づく一貫した指導が必要であると考えます。

現在、本校では各学年において、生徒の実態を踏まえ、基本的な生活習慣（学習習慣）づくりのための具体的な取組を進めてきており、今後、成果・課題の検証と取組の一層の充実が期待されます。

また、中央中学校区の知新小学校、日章小学校、朝日小学校、青雲小学校、新町小学校、とは、定期的に学校課題について情報共有する機会をもっており、今後、本校区の児童・生徒の生活習慣（学習習慣）における課題の改善に向け、校区5小学校と共に9年間を見通した一貫・連携した指導の在り方について検討してまいります。